

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>ゆりかごの理念として「お年寄りを敬う」をかかげている。</p> <p>「お年寄りを敬う」を基本概念に、利用者のご家族・地域の方々の支援にも取り組んでいく。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>理念を日々確認・認識できるように、ホール・業務日誌・ケース記録にかかげている。</p> <p>毎月開催している、グループホーム全体会議において、理念の共通理解、共有を心がける。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>ホーム内に、理念を貼り見ていただき、ホーム便りにも記載するようにしている。</p> <p>職員の名刺に理念を入れることにより、関わる方すべてに理念を見ていただけるようにしている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>玄関周りに、草花を植えたりと明るい雰囲気にし、手作りのホームの看板をおいている。</p> <p>近所の方に野菜を頂いたり、ボランティアに入って頂いたり、良い関係が築けている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>近所の方を呼んで、交流会を開催している。</p> <p>運営推進会議を通じ、今後交流の機会を増やせればと考えている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	ボランティア、家族などの見学・研修を受け入れたり、相談対応や介護者教室を開催している。		今後も継続して行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価の意義を説明し、理解した上で評価し話し合いで改善していくようにしている。		会議などで改善点等を話し合い、実行できるようにしていく。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	どう取り組んでやるのか、未だわからない。		今後、消防署・小学校・保育園・民生委員などに参加を依頼し、会議を行いたいと考えている。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	グループホームが担当して、市民の家庭介護者教室を年3回行い、その為の会議等を行っている。		今後も継続して行っていきたいと考えている。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	現在必要な方が居ない。		地域包括支援センターと連携し、必要となった場合には、対応できるようにしている。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	0・J・T、会議、勉強会等で、きちんと学び防止に努めている。		研修会での内容を全職員が共有できるように努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居希望者には、体験利用・お試し利用等があり、契約に基づく説明を、家族に文面、口頭で説明し、理解してもらっている。</p>	<p>利用契約書、重要事項説明書にて説明している。また、利用者の家族からの問い合わせには、速やかに対応している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>声かけや、訪室を多くし、その中から聞き出した事項を、会議等で話し合い対応している。</p>	<p>意見、不満、苦情などは、職員全員が共有し、改善するように努めている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問時に、きちんと報告し、又、訪問に來られないときには、電話にて対応している。</p>	<p>家族会や、行事なども利用し、報告を密にできるようにしたいと考えている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時の契約書、重要事項説明書にて伝え、又、訪問時にもこちらから聞き、いつでも対応・受け入れできるようにしている。</p>	<p>市役所の高齢者福祉課などより連絡があれば、直ちに対応、改善するように心がけている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議で職員から意見を聞き、改善しようと前向きに取り組んでいる。</p>	<p>月2～3回、定例会議を設け、責任者が話し合い、改善できるよう、取り組んでいる。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>会議等で利用者の状況の変化を話し合い、統一ケアを実施し、申し送りを1日2回必ず行っている。夜勤者 日勤者・遅番 夜勤者へ</p>	<p>遅番の時間を30分延長するなど、利用者の状況に合わせた勤務体制の確保に努めている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の入退職はあるが、移動は行っていない。将来的には予定あり。</p>		<p>デイサービス、ヘルパーの職員も普段から利用者との関係を密にするように声かけ等をしている。</p>
5.人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験に合わせ、年間の研修計画を立て、O・J・Tを中心として、取り組んでいる。</p>		<p>教育委員会が、年間研修計画の他にもそれぞれの職員にあった研修が受けられるよう、働きかけている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>3ヶ月に1度、北信地区のグループホーム交流会に参加し、実習交流も行っている。</p>		<p>今後もネットワーク作りに取り組んでいく。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>入居者、職員を交えた親睦会が年1回、職員同士の食事会をひらいたり、意見や話合える時間・場所作りをしている。</p>		<p>互助会主催の食事会などがあり、コミュニケーションをはかっている。また、所長・責任者がスーパーバイザーの役割を担えるようにする。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修には、積極的に参加してもらい、事業所内の研修を2ヶ月に1回行っている。職員同士の交流会にも数多く参加するようにしている。</p>		<p>資格の取得などにも積極的に取り組んでいく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の不安ができる限り解消できるよう、話す機会・場の提供をしている。</p>	<p>利用者に施設見学をさせていただき、ニーズの聞き取りをする。その後、生活の場として合うか、ニーズを満たせるかどうかを総合的に判断していただく。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の不安が出来る限り解消できるよう、話す機会・場を提供するようにしている。</p>	<p>家族の施設見学を通じ、ニーズの聞き取りをする。その後、生活の場として合うか、ニーズを満たせるかどうかを総合的に判断していただく。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族との話し合いの中から、必要な支援を提供するようにしている。</p>	<p>小規模多機能的な面も併せ持つため、自施設、他施設を問わず、利用者にあったサービスを提供出来るように心がけている。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入居、お試し等を利用してもらったり、本人・家族との話し合い、コミュニケーションを大事にしている。</p>	<p>施設見学、ショートステイの利用者などをすすめ、利用者、ご家族に判断していただけるようにしている。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「お年寄りを敬う」という理念に基づいて、一人一人の経験・生活暦を大切に、一人一人に合った会話・対応をするように、会議等でも話し合っている。</p>	<p>1日のスケジュールにとらわれず、利用者のペースに合わせて支援するように努めている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会・訪問時等、状況を説明しながら家族の意見を聞いたりし、話し合うようにしている。		家族の意見・希望・苦情などを受け入れ、また、通院介助等により、介護に参加していただくようにしている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会・訪問時に、本人と家族と一緒に会話、コミュニケーションを図り、お互いが、より良い時間を作るように努めている。		入所時の聞き取り等を通じて、家族と利用者の関係を十分理解するように努めている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣への散歩・外出（温泉・公園等）を多くし、本人にも行きたい場所・逢いたい人を聞いたりし、家族にも協力してもらっている。		センター方式の導入・馴染みの聞き取りなどを通じ、積極的に働きかける。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の状態等を念頭に置き、ホール又は、相談コーナーにて、会話・茶話会をしたり、自由に行ききできて、自由に過ごせるように努めている。		ひとりひとりの人格を尊重し、利用者間でのコミュニケーションが図られるように支援する。また、プライベートな時間や職場を作ることに注意している。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでも訪問・電話対応できることをきちんと説明し、相談しやすい環境作りに努めている。		退所後も問い合わせがあれば対応するように努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に、本人に聞き、職員を話し合いながら出来る限り対応している。</p>	<p>センター方式の導入を考えている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>アセスメントをきちんと行い、職員全員が把握できるようにしている。</p>	<p>センター方式の導入を考えている。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>小会議等で、一人一人の現状を話し合い、統一したケアが出来るようにしている。</p>	<p>月一回各職員が利用者についてのレポートをまとめ、全員で会議の場で検討するようにしている。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の来訪時等に、家族と相談し介護計画を作成している。</p>	<p>プラン作成の際に、職員間での話し合いをしている。また、家族からの希望があれば、すぐにプランに組み込むようにしている。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎週1回の小会議で、検討されている。又、状態が変わった場合には、その日のうちに話し合いをしている。</p>	<p>月一回の会議にて、アセスメント・モニタリングを行っている。また、常に気付いた事は記入できるように用紙を用意している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	グループホーム業務日誌、個々の日誌を、日勤・夜勤と記録している。		業務日誌・個人ファイルの他に日々の気づきを記入できる用紙を作成している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人・家族の要望等に合わせ、必要な支援を考え提供している。		自主事業として、ショートステイ・日中預かり・送迎などニーズに合わせた支援を行う体制をとっている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	周辺の消防署、警察署に働きかけ、見守りをお願いしている。ボランティアの支援は頻繁にある。		運営推進会議を通じ、今後、利用者が日常的に交流できる機会を作れるように努める。
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	現在、取組んでいない。		月2回、サービス事業者会議にて話し合っている。
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	現在、取組んでいない。		運営推進会議を通じ、連携を密にしたいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医と、相談・話し合いを大切にし、納得の行く医療を提供出来るようにしている。		本人、家族が希望されるかかりつけ医と連携を取りながら支援している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月2回の往診・週3回の訪問看護があるため、その時に、相談・助言をいただいている。		協力医院である、みゆき会クリニックの医師に相談・助言をいただいている。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医師・看護師が定期的に往診に来てくれているため、気軽に相談が出来る。		定期的な往診以外にも、電話報告により指示をおいんだり、訪問していただいている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期・退院に向け、長くとも3週間以内に退院できるように、家族・病院との話し合いをしている。		今後も継続していく。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医の話を、家族に説明し、今後のケア内容について、きちんと話し合い、かかりつけ医に伝え、話し合いケア方針を決めている。		利用者・家族の希望をうかがい、出来る限り希望に沿えるようにしている。家族が望めば、ターミナルケアを行い、職員全員で看取る形をとっている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	訪問看護、往診時にきちんと状態把握し、話し合いを行っている。		ターミナルケアを行う際には、家族・主治医と十分に検討し、対応している。また、リスクマネジメントも十分に行うよう心がけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	行く相手先に利用者さんの普段の状況や好き嫌いな事、くせなど、サマリーを記入し送っている。		サマリー、事前情報の送付に加え、問い合わせにはいつでも対応できるよう、努めている。
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	お年寄りを敬うという理念のとおり、個人の経験、生活歴を大切に、会議等でもきちんと尊厳を守ることを話し、徹している。		認知症の理解を深められるよう、研修・勉強会などで学習する。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	利用者のレベルに合わせ、自分の気持ちを表現できるような質問の仕方をしたりしている。		会話の内容、質問方法（Yes, Noでの返答など）常に利用者を意識して自己決定を促している。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	一日のスケジュールはあるが、利用者のペースに合わせたり、生活リズムを崩さないように支援している。		グループホーム内での目標である、「その人らしく、その人のために」を実践できるように努めている。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	理美容院の協力を得て、出張サービスでの支援をしている。		普段の会議での情報、馴染みなどを、理美容院へ伝えるようにしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	検食の職員のみ、入居者と同じ食事をしている。食事介助・見守りが必要な方がいるため、その他の職員は、介助等に対応している。		利用者の状態に合わせ、茶碗ふき、食器の片付け、お茶くばりなどをしていただいている。食事は調理員が作るが、野菜の下ごしらえ、おやつ作りなどは利用者に協力していただく。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の望む好みのものを出来る限り提供するように支援している。		医療面や、生活歴などで制限される場合を除いては、希望を取り入れるよう努めている。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿・便意の訴えを大切にし、時間を決めて前誘導に心がけている。排泄チェック表を作り、排便コントロールにもきをつけている。		トイレ・浴室と生活空間が仕切られてはいるが、羞恥心への配慮にも十分に気をつけている。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金は全員が入浴し、他の日に入浴希望があれば、土・日も入浴可能。毎日、入浴希望する方は、併設のデイサービスのお風呂を利用する等・要望にこたえている。		入浴日は決まっているが、入浴時間については、本人の希望を取り入れるよう、努めている。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の状態・状況に合わせて、眠くなるまで話相手になるなどの工夫をしている。		眠剤、安定剤の服用に関しても、効果とリスクを職員が十分に理解できるように努めている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内での役割を決め、配膳・食器洗い・生ゴミ捨て・草取り・縫い物など、その時の利用者の状況に合わせて、参加してもらっている。		一人一人が出来ることを主に、日常生活の中で役割分担をしていただいている。また、プライベートは時間を作ることも大切に考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会がほとんど無いためか、利用者はお金を持つことに関心を示さないが、利用者の状態に応じて支援している。		今後は近所への買い物なども検討していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣には温泉が多いので、温泉に行ったり、花見・バラ公園などへの外出の機会を作って楽しんでいる。		日常的には、花の水やり、野菜の世話、散歩などの機会に戸外へ出ている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者からの声を大切に、家族にもきちんと伝え協力してもらえるようにしている。		それぞれの季節、時季にあった計画を立て、外出支援をしている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば、いつでも対応ができるようにしている。		今後も対応していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族は近隣に住んでおり、面会は事由。家族の宿泊も可能になっている。		本人の生活歴などの検討を行い、知人、友人などにも働きかけていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議などを通じて、拘束について深く理解するようになっている。		現在1名、拘束衣の着用をされているが、拘束解除の可能性を常に念頭におき、支援していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の個室のドアはかぎをかけず、玄関の施錠もしていない。		階段部分のみ転落事故防止のため、施錠している。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく、居室に訪問したり、ホールに誘ったりと、安全確認できるように配慮している。		個人のプライベートな時間を大切にしながら、安全確保に配慮している。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に合わせ、職員間で話し合い、個々にあった対応をするように工夫している。		出来る限り、家庭での生活に近づけるよう、ご本人の持ち込みたいものをもってきていただく。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	心肺蘇生法・救命の講習などで、けが、骨折、発作誤嚥などの知識は全員が理解している。マニュアルも作ってある。		今後も知識・技術の向上のため、努力していく。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心肺蘇生法・救命の講習を受けている。緊急の連絡網、マニュアルを作っている。		今後も知識・技術の向上のため、努力していく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	周辺の消防署・警察署・小学校・近隣の方々に協力してもらうように働きかけている。		緊急連絡訓練などを実施し、有事にそなえている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の来訪時に説明し、家族の理解を得る。又、要望にも答えるようにし、そのことについても話し合いをする。		一人一人のリスクマネジメントを行い、リスクの危険が高まった時などには、その都度連絡している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック・週3回の訪問看護などで、きちんと本人の状態を把握し、介護日誌・ケース記録に記入し、共有できるようにしている。		定時のバイタルチェック以外にも個人の状態にあわせたバイタルの把握をするようにしている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師と連絡を取り合い、薬に関して全員が勉強しており、内服薬が変わった時も、記録として残している。		服薬に関しては、作用のみでなく、リスクも熟知できるように努めている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	勉強会・研修などで理解し、適切な水分補給、散歩などの体を動かす事を行っている。		下剤の使用は、看護師の指示のもと、担当者が責任を持って行うように徹底している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを大切に、出来る方には声かけ、出来ない方には介助し、コップ・ブラシなどは間違わないように、大きく名前を書いてある。		歯科技工士により、義歯のかみ合わせの確認、フィッティングなどを定期的に行っている。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量等は日誌に記録している。個々に合わせ盛り付けの量、形態を変え、キザミ食・ミキサー食・など工夫している。		基本的に全員同じメニューを食べているが、高血圧・糖尿病などを有する利用者に関しては、盛り付けの量、調味料等に対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	うがい・手洗い・消毒には注意し、しっかり行い、対策マニュアルを作成し、職員間でも勉強している。		対応マニュアルにそって、流行前に予防できるよう努めている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁・まな板などの消毒をし、台所・調理用具の衛生保持に努めている。食材などにも気をつけ、地元直産を利用している。		今後も十分に注意していく
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	斜面を利用し、ホームの玄関がある。草花を植えたり、手作りの看板を設置してある。		初めての来訪者には、グループホームの入り口が多少わかりづらい面があるため、駐車場からの案内等を工夫していけたらと考えている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂のホールは開放的になっており、浴室も家庭風呂と同じようにし、トイレは使用しやすいように、広くしてある。		季節ごとに、飾りつけなどに留意し、工夫している。ホール天井には天窓を設け、自然光を取り込めるようにしている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやソファを置いた談話コーナー、他者同志の居室を行き来したりと自由に過ごしている。		居室の配置の工夫などで対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	キャスター付の家具があり、家族が泊まる時は、 外に出し、居室を広く使えるようにしている。ま た、本人の使いなれた物なども持ち込んで、自由 に使っている。		それぞれの利用者に合わせた家具の配置等に留意 し、支援している。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温度計・湿度計があり、気にかけて喚起などに努 めている。冷房は極力さけ、自然の風を通すよ うにしている。暖房は床暖房にしている。		室温、においに関しては、常に配慮し、利用者 にあわせた状態に職員が調節するように努めている
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	居室・廊下などに手すりがつけてあり、床は床 暖、机の高さ、色などを工夫している。		手すりは、居室・廊下すべてに設置し、利用者 に合わせて低めに設置している。また、利用者の利 便性を考慮している。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	時計・カレンダーを見える場所におき、過ぎた日 の欄は×印をつけたり、トイレに張り紙をするな どしている。		利用者のペースに合わせ、職員はサポートするよ うに見守り、能力の活用に努めている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	雨が降っても外気浴が出来るようになっていた り、生ゴミすても、散歩しながら行ける近場にあ る。		庭にプランターや、鉢植えの花をおくなど、利用 者にとって、憩いの場となるよう工夫している。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)